

平成22年度 第1回 常呂まちづくり協議会 会議要旨

◎日 時	平成22年4月26日(月)午後5時30分～
◎場 所	常呂総合支所 2F 第1会議室
◎出席者	協議会：10名 根本会長、稲田委員、葛西委員、熊木委員、佐藤委員、澤向委員、新谷委員、田淵委員、広瀬委員、山内委員
◎北見市	塚本副市長、川名地域振興室長、佐々木地域振興課長、信本地域振興担当係長、白石総合支所長、三嶋市民環境課長、森田保健福祉課長、辻産業課長、岡本建設課長、表子育て支援推進室主幹、土島農業委員会事務局長 事務局：吉田次長、川村地域振興担当係長、佐伯地域振興担当

開 会

吉田次長 : 4月1日付け人事異動に伴う関係職員を紹介
(白石総合支所長、三嶋市民環境課長、岡本建設課長、森田保健福祉課長、辻産業課長、表子育て支援推進室主幹、川名地域振興室長、佐々木地域振興課長、信本地域振興担当係長、佐伯地域振興担当)

根本会長 : 挨拶

会議成立 : 委員14名中10名出席(自治区設置条例第7条第3項)

根本会長 : 本日は塚本副市長がお見えになっております。塚本副市長は、3月の第1回定例市議会において、企画財政部長から副市長に就任したところでございまして、自治区長も兼ねられてございます。

就任後、初めての協議会ということで、本日お見えになってございますので、ご挨拶をちょうだいしたいと思います。お願いします。

塚本副市長 : おばんでございます。ただいま紹介を賜りました副市長の塚本と申します。ただ今、会長からもございましたが、今年の第1回定例会は議会選挙があるということで、通常であれば3月中ぐらいから末まで行われるところですが、2月18日から3月5日の予定で開催をされました。これまで、副市長が1年と約2ヶ月ほどいなかったわけですが、3月5日最終日でございまして、議会の選任同意を賜りまして、副市長をおおせつかりました。1名の副市長で各自地区の自治区長を兼ねていかなければならないということで、非常に重責であると感じてございます。

そういうことで常呂の自治区長という役割の中でこれからも常呂自治区発展のために心してやっていかなければならないと常に心の中に思っていますので、

よろしくお願いをしたいと思います。

また、今日までの市政の状況などについて、少しお話を申し上げたいと思いますが、3月28日に今申し上げましたように市議会議員選挙がございました。これまでは36名の議員さんの中で常呂自治区からは3名の議員さんが選出されておりましたけれども、今回の選挙におきましては北見市を一つの選挙区という形の中で、36名の定数から30名の定数へ減らした中での選挙がございました。常呂自治区に住所を有しているかたの中では鈴木議員と浦西議員が新たに議会議員として活動されているところでございます。先般4月20日、21日と2日にわたりまして臨時市議会が行われまして、その中では鈴木議員が総務教育常任委員長の役を、また浦西議員におかれましては福祉民生常任委員会の委員ということで活動を始めたところでございます。そういう意味ではこれからの活動の中で常呂自治区に関連するまちづくりについて、まちづくり協議会のご意見を賜りながら活動をしていくのではないかと考えております。

いずれにいたしましても、この常呂自治区は海よりの気候風土と歴史を持った中で活動してまいりました、そういう中におきまして新しいまちづくりのために、そしてこの常呂自治区の発展のために私も寄与させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

根本会長 : ありがとうございます。

それでは、せっかくの機会ですので、若干のお時間ですが、副市長に何かお聞きしたいことがございましたら、お受けしたいと思いますのですが、何かございますか。

佐藤委員 : 合併以来4年が過ぎたのですが、当初の合併協議会のなかで各自治区に副市長を置くというそういう合併当時のお約束があったと思うのですが、今のお話をお聞きすると自治区長も兼ねるということですが、それは当分の間というか決まるまでということですか。

塚本副市長 : 小谷市長が20年12月21日の選挙で当選したときの市民に対するお約束、すなわち公約でございますが、そのなかでは副市長2名体制で行って行きたいという考え方をお示しになっております。その場合に合併時の約束事でございます各自治区に自治区長を置くという考え方ですが、自治区設置条例第8条第1項には自治区長は副市長をもってあてるとなっております。そして副市長の定数条例は4名を置くということに規程されております。ですから、小谷市長の公約の部分というのは条例を改正していかなければならないという考え方の話になると思います。20年12月21日の市長選挙が終わったあと、25日付で4名の副市長が退任をされました。その後、副市長選任に当たっては小谷市長自らが2名という考えを持っていましたので条例改正案を3月と9月の議会に出しましたが残念ながら議会では否決になってしまったという状況でございます。その結果、これまで置かれていなかったわけですが、やはり1年2ヶ月もの間副市長がないことによる弊害というものが、私から見た目でござい

ますが、あったと思いますし、議会としても異常事態であるという考え方から、当面条例改正ということの2名は認められないけれど、市制執行には副市長が必要であるという考え方が示されたんだと思います。その結果、今回の第1回定例会で1名選任されたということございまして、自治区長を置かないということは小谷市長は言っておりませんので、これにつきましては、これからその制度は継続していくのだと思います。ただ、副市長は2名というそういう考え方で公約を掲げておりますから、その兼ね合いをどうするかというのが、今後の手続き的なものとして出てくるのではないかと考えています。経過も含めてお話ししました。

佐藤会長 : 分かりました。

根本会長 : それでは副市長とのお話は、この辺にさせていただきます。

このあと、副市長は別の用務があり退席されます。ありがとうございました。

報 告

(1) 平成21年度まちづくりパワー支援事業の実施結果について

根本会長 : 平成21年度まちづくりパワー支援事業の実施結果について、それぞれの実施団体より報告をいただきたいと思います。

①空店舗シャッターのペイント事業

【ところ街づくり実行委員会】

太田実行委員 : ー当日配布の資料を提示して報告ー

ところ街づくり実行委員会の委員の太田です。それでは報告させていただきます。

常呂中心市街地におけるペイント可能な空店舗数は約15店舗存在しております。20年度はこの15店舗のうち5店舗にペイントすることができました。最初はやり方もわからず、ただ空店舗が多くなった街を何とか、綺麗に賑やかにしたいという思いだけで全くの手探り状態の中で始めたペイント事業でしたが、21年度は20年度の実験を生かし、テーマを定め常呂町にある観光施設又は常呂ならではの農業、漁業、観光等をシャッターに描くことを決め事業に取りかかりました。住民参加ということで、各事業所並びに常呂高校生にも参加していただきました。20年は5店舗のシャッターにペイントを致しましたが、21年度は倍の10店舗にペイントを実施し4ヶ月を要しましたが、常呂中心市街地も少しは明るさを取り戻したのではないかと自負しております。また、町民、町外の人達からも絶賛されたことは私達も大変嬉しく思っております。20年と21年の作品を写真に撮り、総合支所、金融機関等のロビーに展示し、より多くの人達に見てもらい、この事業に関し、市民の皆様には中心市街地活性化の必要性を理解していただけたものと思っております。この事業を通して我々実行委員会は主に商業者がメンバーとなっておりますが、シャッターに絵を描きながら本当は空店舗が無く、絵を描かなくていい、中心市街地になるのが理想なのですが、こうして空店舗のシャッターに絵を描かなければな

らない現状を複雑な気持ちで作業をしていたことも事実であります。絵を描いた空店舗シャッターの隣も空店舗で絵を描き、そして向かい、筋向かいのおみせのシャッターにも絵を描きました。我々はこれからも、いつの日かこの空店舗のお店がまた明かりを灯し商店として蘇るよう努力し、いろいろなことに挑戦していきたいと思っております。

以上、平成21年度空店舗シャッターのペイント事業の報告と致します。

意見・質問

委員一同

—意見・質問等特になし

②「ところ・笑顔の輪」づくり事業

【「ところ・笑顔の輪」づくり実行委員会】

本見実行委員：—当日配布の資料を提示して報告—

実行委員長の浦西が本日不在ですので、私が代わりに報告させていただきます。実行委員の本見と申します。よろしくお願いします。

笑顔の輪づくり実行委員会では4つの事業を企画しておりまして、予定どおり4つの事業を実施しました。まず1つめは7月23日に「認知症サポーター養成講座」ということで憩いの家で認知症についてみんなで学ぶということで90分程度の講義型式で行いました。2つめの事業は、「ところ商店街夕涼み広場」ということで8月12日に夢ふうせんの駐車場でオホーツクの短い夏を楽しむ企画ということで商工会や本通り町内会の皆さんにご協力させていただいて夏祭りのほうを実施させていただきました。3つめは、「常呂自治区地域福祉講座」ということで10月2日に憩いの家で山口県平生町社会福祉協議会のほうから福島事務長においでいただきまして、老いと認知症、障害などをキーワードに、当事者の方を地域で孤立しないように関係機関、同じ地域社会に暮らす人に何ができるのかというようなことの具体的な実践例を紹介いただきお話を聞きすることが出来ました。4つめは「常呂自治区まちづくりフォーラム」ということで「みんなでつくる常呂の地域医療」ということをテーマに10月3日に常呂中央公民館で二部制に分けて行いましたが、第一部は「地域医療の今を知る」ということをテーマに北見市地域医療対策室長の五十嵐さんにおいでいただきお話を伺いました。分かりやすいスライドを交えての報告でした。第二部では、「みんなでつくる常呂の地域医療」ということで常呂厚生病院の山下院長、のぞみの園の藤橋常務理事、夢ふうせん介護事業所のほうから私と常呂総合所から川南健康推進担当係長に、それぞれパネリストとしてそれぞれの対場からのお話をいただき、意見交換を行いました。それぞれひとつのテーマにのっとりながら、1年間活動してきました。感想もこちらの資料にいろいろとのせてあります。それぞれ有意義な時間をもつことが出来たのではないかと思っております。以上です。

意見・質問

委員一同

―意見・質問等特になし

③ところファミリー劇場事業

【ところファミリー劇場実行委員会】

加藤実行委員：―当日配布の資料を提示して報告―

代表が変わりましたので事務局を担当しています加藤が報告させていただきます。

これは平成20年度からの継続事業で去年で2回目となります。この地域の人達が実行委員会を作って、自分達の手で作り上げる。そして、家族単位で楽しんでもらう。そういった場作りをしたいということです。それから、ステージ文化、子ども達が楽しめる、家族連れに楽しんでもらうそういったステージ文化をこの地域の中で自分達の手で提供していくことが出来たらということをお案して実施しています。1つめは10月17日に札幌を拠点として道内全域で活動している KURO さんというかたのジャグリングショーです。大変たくさんのかたが見に来てくれました。全部で170人ほどの家族連れの方が来てくれました。チケット売りに関しましては、実行委員会、それから子ども達同士、家族同士で口コミでチケットを販売できて、その結果がこの動員数になったのではないかと思います。この地域は4500~4600ほどの人口ですから、これだけの数の家族が一晩で集まってみんなで楽しむというのは、なかなかないのでと思います。それから、18日にはバルーンアートの講習会を行いました。このときも10名ほどの参加者があってバルーンアートの簡単な基礎講座を体験してもらいました。ステージ文化を鑑賞すると同時に体験するという、そういう場面作りをできるだけしていきたいと考えております。11月14日には岐阜県の夫婦二人でやっている劇団で20年度にも来ています劇団「なんじゃもんじゃ」という小さな劇団が公演をしております。ちょうど新型インフルエンザが流行していた時期ということもあり、参加者は70名という数字になっています。10月から11月は新型インフルエンザが蔓延していたので、実行委員会では全員を対象としてマスクを購入して配付をするということをお策としてしております。残念ながら、このときはこれだけの数でしたが、この当時、小学校や保育園などが休校・休園していたなかでは、十分な動員数だったのではないかと考えております。資料の3ページには、かいつまんでどのような成果ということで書いてありますが、最初にも申し上げましたが、この地域で自分達で作るステージ文化を楽しんでもらうまちづくりをしたい。そういうなかで少しずつですが実行委員会のメンバーも代替わりをして若い世代も入るようになってきています。最終的には、30代40代くらいの人達が、自分達の手でこの地域の子どものことを考える、そんな実行委員会にしていきたいと考えています。そのためにも、このような形の実行委員会形式、このような形のまちづくりパワー支援事業、こういうものがこれから先も継続でき

たらと考えています。

意見・質問

委員一同

—意見・質問等特になし

議 題

(1) 平成22年度まちづくりパワー支援事業の審査について

根本会長

： それでは、平成22年度まちづくりパワー支援事業の審査を行います。

本審査は、公開のヒアリング審査となります。審査に入る前に、事務局から応募状況や事前審査の状況について説明を受け、さらに本審査の手順について、皆さんで確認をしたあと審査に入っていきたいと思います。それでは事務局より説明願います。

事務局

： —【資料2】を提示して説明—

それでは、ご説明させていただきます。

本年度は、4月1日から19日までの募集期間ということで、例年より5日ほど長く募集したところですが、ご覧のとおり、3団体からの応募となりました。

それでは事前審査の状況についてですが、資料2、まちづくりパワー支援事業応募状況一覧をご覧ください。また、資料3として、各団体からの企画書を添付してございます。詳しい中身につきましては、そちらを併せてご覧いただきたいと思います。

今回応募いただきました3事業は、新規事業2件、継続事業1件となっております。

1団体目は、ところ街づくり実行委員会の「常呂森林公園に桜を植えよう事業」でございます。昨年、一昨年と先程の報告にもありました「空店舗のペイント事業」を実施いただいた団体であります。今回は、常呂自治区住民の憩いの場である常呂森林公園に、住民の協力を得ながら、桜を植樹し、地域の活性化と協働意識の向上を図るというもので、6月に桜を植樹し、11月には冬囲いをするといった内容となっております。総事業費は590,845円、補助金要望額は10分の9以内の530,000円となっております。

2団体目は、3年目の継続事業となります「ところファミリー劇場」実行委員会の「ところファミリー劇場」事業でございます。親子で参加できる子どもの文化ステージを住民が自ら企画し、実施することで、子どもたちの文化活動の振興に寄与するというもので、9月に人形劇の劇団なるにあの公演と人形遊び講座の開催、11月には大道芸のトイ・シアターの公演、2月には絵本読み聞かせパフォーマンスを開催するという内容でございます。総事業費は320,000円、補助金要望額は10分の9以内の278,000円となっております。

ます。

3団体目は、新規事業で、特定非営利活動法人 自然体験村 虫夢ところ昆虫の家の「ツリークライミング体験事業」でございます。道東オホーツク地域の自然を生かし、地域の青少年を対象にツリークライミングという活動を通じて、健全育成や地域活性化に寄与するというものでございまして、6月、7月で体験教室を開くためのフィールドを作成、8月に体験教室を開催するという内容で、総事業費は595,930円、補助金要望額は10分の9以内の520,000円となっております。

3事業とも、団体要件、対象事業要件、補助金要望額など補助金交付要項に基づく各要件を満たしており、事務局における事前審査におきましては、全て「適当」とし、本審査に付するものでございます。

以上でございます。

根本会長 : それでは、ただ今説明のありました3事業について、本審査で審査することとしてよろしゅうございますか。

委員一同 : 異議なし

根本会長 : それでは、3団体から応募のありました3事業全てについて、本審査で審査することに決定いたします。次に本審査の手順について、事務局より説明させます。

事務局 : まず、本審査の流れについてですが、別冊の資料4の「まちづくりパワー支援事業審査資料」の7ページをご覧ください。

「まちづくりパワー支援審査実施要領」がございまして、この要領の「5、評価の方法」に基づきまして行うこととなります。

まず団体から事業内容等について説明を受けたあと、質疑応答を行い、審査会評価シートによる採点、集計、平均点を出して、採択の可否と順位や補助額を公表という流れで行うこととなります。

次に審査方法についてですが、こちらのシートを使って行います。評価シートは無記名・非公開とします。

5つの評価項目に対し、それぞれ下段の評価基準により1点から5点の採点を行い、各事業ごとに最低5点から最高25点までの点数をもって採点が行われます。採点が終わりましたら評価シートを回収し、各委員の採点結果を集計し、各事業ごとの平均点を算出します。

その平均点を資料4の1ページに記載されている補助率に当てはめて補助金の額を算出します。

今回は要望額が予算の範囲内なので該当しませんが、審査後に補助金の総額が予算額の150万円を越えた場合は、予算の範囲内になるよう按分を行い、最終的な補助金算定額を算出するということとなります。以上でございます。

根本会長 : ただ今事務局より審査の手順について説明がございましたが、何か質問等ありませんか。

委員一同 : 意見なし

根本会長 : それでは、これより公開ヒアリング審査を行います。
企画書の提出順に行っていただきたいと思いますので、各団体の説明者の方、
よろしくお願いします。
なお、各団体の説明及び質疑応答に係る時間は、それぞれおおむね10分程
度と考えておりますので、よろしくお願いいたします。
それでは最初に「ところ街づくり実行委員会」から事業の概要等についてご
説明願います。

公開ヒアリング審査

(1) 「常呂森林公園に桜を植えよう」事業 【ところ街づくり実行委員会】

— 資料3 P1~P9 —

横山代表 : 「ところ街づくり実行委員会」の代表をやっております横山です。よろしく
お願いします。

去年、一昨年にわたりまして2年間、商店街の空店舗のシャッターペイント
事業を行ったわけですが、去年の10店舗はかなり厳しいものがあり
まして、今年は何もやらないつもりでいたのですが、この時期になって実行委
員会のメンバーと相談したところ、やるということになったのですが、なか
なかい案が浮かんでこなかったわけです。そんななかで誰かのちょっとしたこ
とで桜という話が出たわけです。パークゴルフ場や焼肉のハウスのある森林公
園に桜を植えて楽しんだらどうかという発想になったわけです。最初50本く
らい植えようかと思ったのですが、何かあの場所のことを聞くといっぺんには
無理なような感じでございます。また50本になるとかなりの金額になります
のでとりあえず30本程度を植樹しようということ考えました。私どもだけ
でなく町民の皆様にもご協力を得てこの場所に桜を植えたいと思います。ま
た、続けてやることによって町全体が桜の名所というか、私個人的な発想で
ございますが、ゆくゆくは常呂町千本桜というような構想もどうかと。各町内
会のどこにいても桜があるというそんなことも個人的には思いついたところ
でございます。そんなところで今年はとりあえず森林公園に桜を植えるという
企画でございますが、精一杯やらせていただきたいとおもいますので、よろし
くお願いいたします。

主な質疑応答

葛西委員 : 資料3の7ページに実行委員会の会則がありますが、委員会の目的に少
し合わないような気がしました。事業の内容について問題はないと思うので
すが、会則を改正したらいいのか、違う委員会のほうがいいのかと思って読ま
せていただきました。

- 白石支所長 : いきなりこの場で変えるというのは難しいので、次に向けてできるように直していくということでいかがでしょうか。
- 葛西委員 : 了解
- 根本会長 : ひとつお聞きしたいんですが、森林公園は土地が悪いですよ。その辺は大丈夫なんですか。
- 横山代表 : その辺についても、いろいろと聞いています。通常植えてるのが、かなり細かい桜を植えているようなんです。それで、私達が植えようとしているのは周囲12センチくらいのもので考えています。1本高いものだと1万7千から8千円するそうで、今回予定している苗木も1万円以上しますので、それと植込みの土だとかそういうものも業者さんにアドバイスを受けながらやっていこうと思っています。冬囲いとか折れないような対策もしようという計画です。

(2) 「ところファミリー劇場」事業

【「ところファミリー劇場」実行委員会】

ー 資料3 P10~P15 ー

- 広瀬代表 : みなさんこんばんは。ところファミリー劇場実行委員会代表の広瀬です。
- ところファミリー劇場は、平成20年度から先ほど報告がありましたようにこのまちづくりパワー支援事業の助成を受けて、地域の人達が実行委員会を作り、こどもの文化を育てるために、さまざまな公演を続けてきました。平成20年度は劇団「なんじゃもんじゃ」それとタカパーチの公演を行い、どちらも子ども達が盛り上がりステージに上がって楽しむ機会となりました。平成21年度は20年度に引き続き劇団「なんじゃもんじゃ」それと KURO のジャグリングショーを行い、ステージ文化の幅の広さや豊かさを味わう機会となりました。ジャグリングに絡めてバルーンアートの講習会も行い、自ら作って楽しむ喜びを得る機会にもなりました。そして、今年平成22年度はさらに様々な文化を楽しむ機会として、劇団なるにあのファンタジーの人形劇、そして人形を作って遊ぶワークショップ、それから札幌で活動しているパントマイムの二人組みトイ・シアターの公演。これは、昨年のジャグリングショーなどと同じ大道芸の面白さを体験する機会と考えています。最後には、絵本の世界を楽しむ身近なものにしていく音楽やリズムがついた楽しい読み聞かせライブを行います。子ども達が豊かな心を持って育っていくことを願いまして、地域の力で親子と一緒に参加し楽しむ場所を作っていくことを私達は考え、こうしたプランを作りました。小さな活動ですが、毎年家族ぐるみで参加して下さる方達が増え、今年は何をやるのという声を聞くと少しずつ定着してきていることを嬉しく思うと同時に、仲間づくりをしながら公演活動を続ける楽しさも感じております。常呂で就職した若い世代の人たちも実行委員会に入ってください、私達に元気を与えてくださってます。私達の活動にどうぞご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

主な質疑応答

- 新谷委員 : 去年のスケジュールを見たときに、夜公演されていますよね。集客の部分では、日曜の日中と土曜の夜とでどうなんですかね。親子で出るとはいえ、夜はこどもが出ずらいのではないかと思います。
- 加藤実行委員 : 20年度と21年度は6時30分からで公演時間は1時間くらいのもので。日曜日、祭日にしたことはありませんが、この地域のことを考えますと日曜日の日中はなかなか人が集まりにくいとか、家族連れの単位では集まりにくい地域だと感じています。現実には北見のほうにたくさん家族連れが行ったりしているという、そういう点で平日ではないのですが、週末土曜日の夜が良いと考えています。これまでも、100人から150人くらいの参加者がありますので、今のところそれで問題は無いと思っています。ただ、今回は3つありますので、そのうちの一つを日中とか祭日、日曜日というときに考えてみたいと思います。
- 新谷委員 : 継続事業で3年目ですが、今後のご活動としてはさらに継続されるお気持ちでいらっしゃるのですか？
- 加藤実行委員 : 出来たら実行委員会を若手の方に引き継いで街を活性化させていけたらと思います。
まちづくりパワー支援事業は3年間ということで、これまでも小さなものしかしてないんです。自前では演劇だとかは難しいかもしれませんが、せいぜい200円300円くらいで参加できるものであれば、これからも出来るのではないかと思います。ともかく、この地域になんらかの形で根付かせるという仕組みづくりを自分達でも考えたい。
- 新谷委員 : このように継続され、地域で子ども達に根付いていく事業であるという評価がこのあと公認されていくのであれば、ご自分達で実行委員会を立ち上げてやるからこそ意味があるのかもしれませんが、たとえば社会教育や文化連盟など、行政も応援するようなことにも発展していけるのではと思います。3年目の継続事業をやった後、せっかく根付いたものが地域住民の力だけでは大変な部分が出てくるようなときに、いろんな手伝い出来るようになればいいのじゃないかなと今質問させていただきました。

(3) ツリーライミング体験事業

【特定非営利活動法人 自然体験村 虫夢ところ昆虫の家】

— 資料3 P16~P28 —

- 若原代表 : おばんでございます。ところ昆虫の家事務局の若原です。よろしくお願いいたします。

昆虫の家の活動は平成元年からやって今年で22年目にはいります。多くの町の会員に支えられいろいろな活動をしておりますけれど、ホタルがいたり、池があっていろいろな昆虫なども飛んでいるので、そういう環境を子供たちに

提供し、自然体験を楽しんでいってもらっております。そういうことでいろいろと活動はやっているんですが、ボランティアでやってる団体で、会員が今年、去年は67人くらいいてそのお金で運営しております。電気、ガス、水道をまかなって、そのほか会員、ボランティアにいろいろ協力していただいております。今回はまちづくりパワー支援事業で、裏山でツリークライミングという木にロープを張って登って遊ぶ、そういう体験をさせたいと考えております。また、講演もしてもらって、道具や場所を作って子供たちに自然体験をしてもらおうということです。旭川辺りにはあるんですが、この辺にはそういう設備とか遊ぶところはありません。それで、道東地区はところ昆虫の家でやりたいと考えました。50年以上経っている木があるのでその木を利用してツリークライミングをやる。そのお手伝いを行政から得て協働でやりたいと思います。昆虫の家では、ニトリなど多くの団体から助成金をもらって5キロ桜を植えたり、そういうこともやっていますけど。子供たちを集めていろいろな自然体験や、共同生活を通じていろいろなことをさせてやりたい。そういう目的をお願いをしている次第でございます。審議のほうよろしく申し上げます。

主な質疑応答

- 新谷委員 : 予算書を見ると、講師の方に来ていただくことになってますが、皆さんもともに取り組みということで、今来ていただいてできれば、来年以降はそのまま出来るような形なんですか。
- もう一つ、委託料が25万円あるんですが、これがないと次の年もできないのですか。そういった継続的な部分はどうかと思ひまして。
- 若原代表 : その辺をご説明させていただきます。ここにありますように、人件費ということで講師の指導費をみています。一応危険性がありますのでその専門家を呼んで、私達協力員が指導を受けて、将来的には私達が先生になって子供といろいろと体験させたいと考えています。地域の団塊の世代とかそういう人たちも含めて三世代くらいまでが関わり合うなかでこういうことをやっていきたいということを考えております。委託料というのは、体験の場所が昆虫の家の裏山になるわけですが、雑草とか木があってそれを要するに枝払いとかそういう整備をしたり、施設を設置する費用としてみさせてもらっています。本当は、教材としてロープとかいろいろな道具を買いたかったんですけど、この事業では無理ということで、とりあえず今回は、施設だけを作って、ロープとか金具などは全部向こうから持ち込んできて説明してもらいます。道具については補助金を探して、そのうちに揃えたいと考えています。これから随時子供たちを集めていろいろな体験をさせる、そういうことをやっていきたい。昆虫の家はそういうところなんで継続してやっていきたいと考えております。
- 葛西委員 : 19ページの予算配分書をみさせてもらってるんですけど、委託料の委託先と、旅費の欄の内訳に日吉から昆虫の家13000円（ハイヤー）ってなっていますが、この二つのことについて教えてください。

若原代表 : 委託先については、土建業者に頼んでやってもらう予定でございます。旅費に関しては、要するに講師の足代として、公的な交通手段では女満別空港から北見まで来て、北見から日吉までバスが来てますが、日吉から昆虫の家までのバスがないものですから、どうするかということでハイヤー会社に聞いたところ、常呂からの分がかかるということで、その額を上げさせてもらってます。旅費として考えたときに一応そういうことで考えました。

根本会長 : 全ての説明が終了いたしました。
次に審査になりますが、私としては、どれも素晴らしく、是非やっていただきたい事業であると思っております。補助金の要望額も予算の範囲内という状況もありますので、この3事業とも要望額をもって採択してはどうかと思うんですが、皆さんいかがでしょうか。

委員一同 : 異議なし

根本会長 : それでは、3事業すべてを採択とし、要望額をもってまちづくり協議会の審査結果とすることで、よろしゅうございますか。

委員一同 : 異議なし

根本会長 : それでは、そういうことで決定とさせていただきます。

なお、最終的な補助額等の決定につきましては、まちづくりパワー支援事業補助金交付要綱の第8条第2項の規定により、自治区長の権限となっておりますので、市に対して、まちづくり協議会の審査結果を尊重し、決定されるよう、通知いたします。

また、申請団体の皆さんにお願いですが、ただいま採択を決定した事業において、事業内容が大きく変更になるような場合には、補助金交付要綱第12条第2項の規程により、まちづくり協議会で協議することとなっておりますので承知おき願います。

以上で、平成22年度まちづくりパワー支援事業の審査を終わります。

その他

根本会長 : 次に、「その他」ですが、事務局から1件説明事項があるということですので、若干時間をいただきたいと思います。それでは事務局より説明願います。

事務局 : 2月に行われました協議会で説明しました第2次の実施計画の中で防災行政無線の更新事業ということで事業計画をあげてました。現在は漁協を中心とした防災無線を整備しているんですが、それが古いということで今回更新事業ということで計画してました。いろいろと協議を重ねておりますが、第2次実施計画では本年度が実施設計、来年度工事施工ということで採択されています。2月段階では実施設計についてはもう少し中身を整備して6月を目途に補正予算と考えてましたが、本年度北海道においてオホーツク海沿岸を対象とした津波シミュレーションをやることになりまして、できればそのシミュレーションの結果に基づいた津波浸水想定範囲と本事業の整備設備計画範囲の整合性をとりたいということで、少し事業は遅れますけれども後戻りしないよう、調整をし

て進めたいというふうに考えておりますのでご理解をいただきたいと思います。

それからもう1件ですが、前回の協議会で説明しました道道土佐東浜線の常呂橋の架け替え、マリンバンクの前の橋の件ですが、仮設橋をかけて今の橋を架け替えるという形で工期の説明をしたものですが、実際先週辺りから土現のほうで漁協さんと具体的な協議に入っています。いろいろな経過があるんですけども、具体的な要望事項とか、質問事項などが出ています。それから、橋が架け替えでは設計上若干橋が高くなるわけですが、その関係で本通り地区とか弁天地区の住民の住宅の関係などいろいろとそういう課題が出されましたので、今後もう少し具体的な協議を土現、それから河川の拡幅もやっていますので開発、それから、河口港は網走管轄の土現、道路は北見管轄の土現ということでそれぞれ事業が進むことになりますので、その辺の調整を進めていきたいということで、今日土現の事務所のほうで来てお話をしております。もう少し具体的にになりましたら改めてお話していきたいと思いますので、よろしく願います。

- 根本会長
委員一同
根本会長
新谷委員
- ： ただいまの事務局からの説明について、何か質問等ありませんか。
- ： 異議なし
- ： 以上で、本日の議題はすべてを終了しました。その他として委員の皆様から何かございますか。なければ、事務局から何かありますか。
- ： まちづくりパワー支援事業の勉強会を前回やったということでそのときにもしかしたらあったのかもしれないのですが、記憶は定かではないんですが、前に副市長の話しをされたときに各自治区のこともお互いに知ったほうがいいよねといった話をしたことがあるのですが、そのときに今日でしたら、まちづくりパワー支援事業の常呂自治区のこと話してますけど、例えば北見はどうなのか、端野はどうなのか、留辺蘂はどうなのかという資料がここにあってもいいかなと思いました。そういった、お互いの自治区でどのような活動をされているのか私達も知ることでお互いの自治区理解が深まっていくことになると思うので、資料的には常呂のことだから常呂のことだけでいいんじゃないのということではなくてお互いがよその自治区を思いやれるような形にそれぞれの会議がなっていけばいいかなと思いました。それと、昨年度の事業報告を先ほど見たばかりなんですけど、笑顔のまちづくりみたいな認知症のサポーターを養成することで小さな地域だけどみんなで支え合おうという事業が、これは常呂自治区のような規模だから出来た事業なのかもしれませんが、これを今後高齢化社会に向けて必要としている、又は、こうなって欲しい、こういう社会になって欲しいなと思ってらっしゃる方はたくさんいると思うんです。それが、北見市となったときに、北見にたくさん人がいますんで11万人とかいうなかでこういったこつこつとした取組みというのはなかなか出来ないのかなという印象があるのですが、もしかしたらやってるのかもしれないし、できてるのかもしれないですけど、ただ北見の街に暮らす人達も孤立していくような部分や、高齢化や認知症の部分でこういった横のつながりもとれないままいるようなことにもなるんじゃないかなといったときに、こういった地域住民が自発

的にやっている活動を行政がいかに刺激を受けてそれを次の事業に発展させるかそういった取組みってないのかなあというのが、さっき事業報告を受けて思ったことです。住民がやっているんだから住民で、役所のことは役所で決めてというのではなく、そういった住民の自発的な活動から、行政のあり方を学ぶようなことだってあるんじゃないのかなという思いがしたので、そういった部分を積極的に北見の様々な事業にも反映していただければいいかなと思いました。

白石支所長 : まさに今、新谷委員のおっしゃったようなことだと思うんですね。それぞれの自治区で150万の予算を持ってやっている事業で、合併後1年経過後にスタートしているということなので、当然ながら他が何をやっているのかということも知りながらいろんな企画もしていかなければならないということでもありますし、おっしゃったように常呂において素晴らしいことをやっているのに広めないというのはもったいないことです。そういうことも意識しながら我々としても知らせたり、持ってきてお知らせをするということを意識してやっていきたいと思います。ちょっと今日はそういうことではまったく出ませんので、今後、資料の提供を忘れずにやっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

新谷委員 : 例えば今、北見市で市役所を建てます、病院も新しくなります。北見市役所のことだけで言えば、例えば常呂の住民だったら勝手に早く建てちゃいなさいよとか、やりたいなら早く建てちゃえばいいのに、どこでもいいじゃないのって、たとえば思う自治区の住民がいたときに、そうじゃない日常から各自地区の取組ですとか活動がお互いにまちづくり協議会の委員からでもつながりを持つようなものがあればお互いに理解が深まったり様々な活動で手をつなげるといったことにつながるのかなと思います。是非、新しく支所長も来たことでいろいろな情報提供をお願いします。

【次回開催日程】

事務局 : 次回の協議会の開催につきましては、あらためて日程調整をしたうえで、ご案内したいと考えてございますので、よろしくお願いいたします。以上でございます